

## 国の次期がん対策推進基本計画の策定と岩手県がん対策推進計画について －今後の岩手県がん対策推進協議会の開催（予定）－

現行の第2次岩手県がん対策推進計画の計画期間は平成25年度～平成29年度であり、今後、国のがん対策推進基本計画の内容を踏まえ、次期がん対策推進計画の策定に向けて本協議会において議論を進めていく必要がある。

なお、国のがん対策推進基本計画は平成28年6月の次期基本計画閣議決定に向けて、議論を進めているところである。

これらのことから、現段階における今後の本協議会の開催予定は次のとおり。

### 1 国の次期「がん対策推進基本計画（H29～H33）」の策定スケジュール

#### ① 平成28年度

- ・ ～H29.1 次期基本計画骨子案提示
- ・ ～H29.3 次期基本計画諮問・答申

#### ② 平成29年度

- ・ ～H29.6 次期基本計画閣議決定

### 2 次期「岩手県がん対策推進計画（H30～H34）」の策定スケジュール

平成28年度末～平成29年度 4～5回程度開催

#### 【見直しに向けた議論の進め方】

区分	平成28年度												平成29年度			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月～3月
国			第57回協議会							次期基本計画骨子案提示		次期基本計画諮問・答申			次期基本計画閣議決定	
県																県協議会（4～5回程度開催）

【参考】国の第57回がん対策推進協議会（平成28年5月27日開催）資料

- ・ 資料5－1 基本計画見直しに向けた議論の進め方(案)
- ・ 資料5－2 がん対策推進基本計画の全体像
- ・ 資料5参考 今後のがん対策の方向性について（～これまでに取り組まれていない対策に焦点を当てて～）の概要

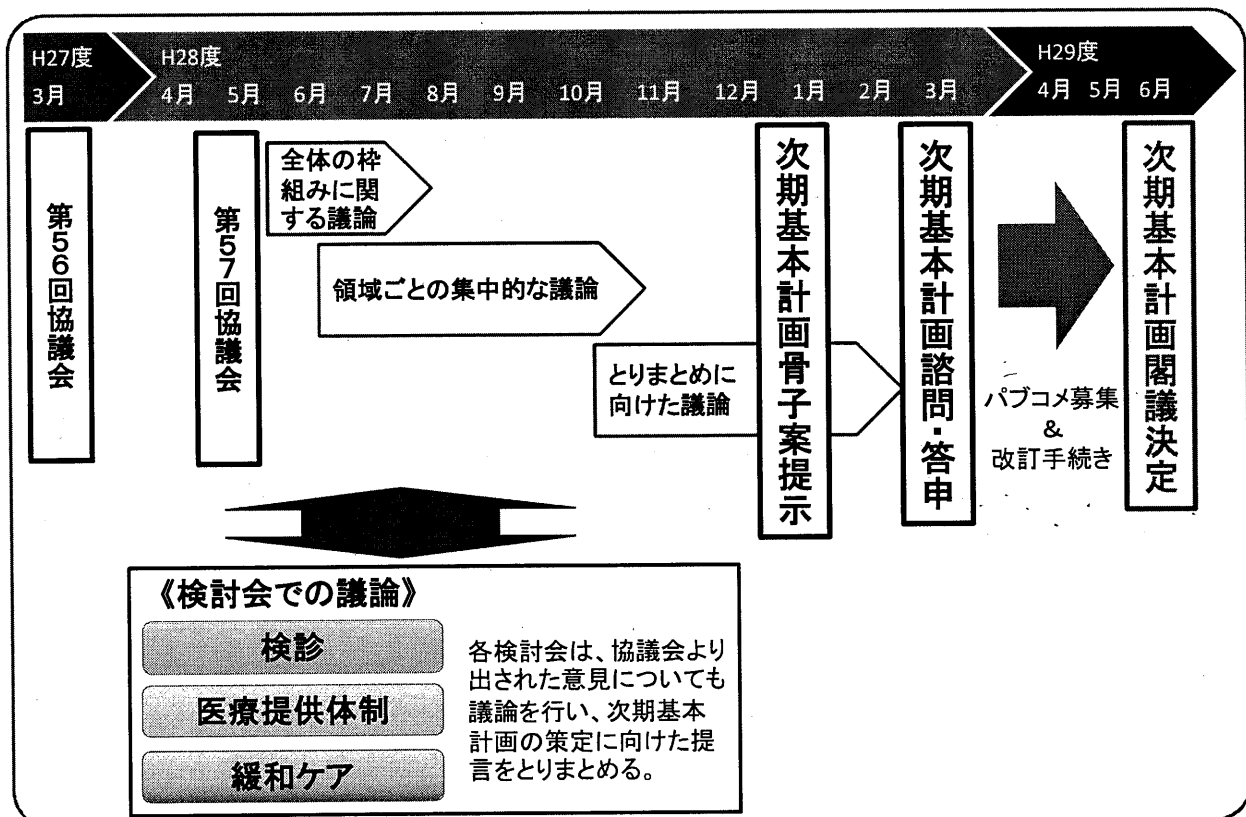
## 基本計画の見直しに向けた議論の進め方(案)

- まず、基本計画の枠組みについて、以下の議論を進めてはどうか。
  - 大項目の構成を見直す必要があるか。
  - 各項目の内容を変更・追加する必要があるか。
- 領域ごとに集中的な議論を順次開始してはどうか。

1

第56回がん対策推進協議会（H28.3.10）資料8より一部改変

## 基本計画の見直しに向けた議論の進め方(案)



## がん対策推進基本計画の全体像

第 1 期基本計画	第 2 期基本計画
<b>第 1 基本方針</b> 1 がん患者を含めた国民の視点に立ったがん対策の実施 2 重点的に取り組むべき課題を定めた総合的かつ計画的ながん対策の実施	<b>第 1 基本方針</b> 1 がん患者を含めた国民の視点に立ったがん対策の実施 2 重点的に取り組むべき課題を定めた総合的かつ計画的ながん対策の実施 3 <u>目標とその達成時期の考え方</u>
<b>第 2 重点的に取り組むべき課題</b> 1 放射線療法及び化学療法の推進並びにこれらを専門に行う医師等の育成 2 治療の初期段階からの緩和ケアの実施 3 がん登録の推進	<b>第 2 重点的に取り組むべき課題</b> 1 <u>放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とこれらを専門に行う医療従事者の育成</u> 2 <u>がんと診断された時からの緩和ケアの推進</u> 3 がん登録の推進 4 <u>働く世代や小児へのがん対策の充実 ※</u>
<b>第 3 全体目標並びに分野別施策及びその成果や達成度を計るための個別目標</b> 1 目標及びその達成時期の考え方 2 全体目標 (1) がんによる死亡者の減少 (2) すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上 3 分野別施策及びその成果や達成度を計るための個別目標 (1) がん医療 ① 放射線療法及び化学療法の推進並びに医療従事者の育成 ② 緩和ケア ③ 在宅医療 ④ 診療ガイドラインの作成	<b>第 3 全体目標</b> 1 がんによる死亡者の減少 2 全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の質の維持向上 3 <u>がんになっても安心して暮らせる社会の構築 ※</u> <b>第 4 分野別施策</b> 1 がん医療 (1) <u>放射線療法、化学療法、手術療法の更なる充実とチーム医療の推進</u> (2) <u>がん医療に携わる専門的な医療従事者の育成</u> (3) <u>がんと診断された時からの緩和ケアの推進</u> (4) <u>地域の医療・介護サービス提供体制の構築</u>

<p>⑤ その他</p> <p>(2) 医療機関の整備等</p> <p>(3) がん医療に関する相談支援及び情報提供</p> <p>(4) がん登録</p> <p>(5) がんの予防</p> <p>(6) がんの早期発見</p> <p>(7) がん研究</p>	<p>(5) <u>医療品・医療機器の早期開発・承認等に向けた取組</u> ※</p> <p>(6) <u>その他(希少がん・病理診断・リハビリテーション)</u></p> <p>2 がんに関する相談支援と情報提供</p> <p>3 がん登録</p> <p>4 がんの予防</p> <p>5 がんの早期発見</p> <p>6 がん研究</p> <p>7 <u>小児がん</u> ※</p> <p>8 <u>がんの教育・普及啓発</u> ※</p> <p>9 <u>がん患者の就労を含めた社会的な問題</u> ※</p>
<p><b>第4 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項</b></p> <p>1 関係者等の有機的連携・協力の更なる強化</p> <p>2 都道府県による都道府県計画の策定</p> <p>3 関係者等の意見の把握</p> <p>4 がん患者を含めた国民等の努力</p> <p>5 必要な財源措置の実施及び予算の効率化・重点化</p> <p>6 目標の達成状況の把握及び効果に関する評価</p> <p>7 基本計画の見直し</p>	<p><b>第5 がん対策を総合的かつ計画的に推進するために必要な事項</b></p> <p>1 関係者等の連携協力の更なる強化</p> <p>2 都道府県による都道府県計画の策定</p> <p>3 関係者等の意見の把握</p> <p>4 がん患者を含めた国民等の努力</p> <p>5 必要な財源措置の実施と予算の効率化・重点化</p> <p>6 目標の達成状況の把握と<u>がん対策を評価する指標の策定</u></p> <p>7 基本計画の見直し</p>

下線部は主な変更点、※は第2期における新規項目を示す。

## 今後のがん対策の方向性について

（～これまで取り組まれていない対策に焦点を当てて～）の概要

## ○経緯

平成24年6月に第2期がん対策推進基本計画が閣議決定され、基本計画に基づいて、がん診療連携拠点病院の整備や緩和ケア提供体制の強化、「がん登録等の推進に関する法律」の制定、がん検診受診率の向上、小児がん拠点病院の整備、「がん研究10か年戦略」の策定等の施策を推進してきたが、基本計画の策定から3年が経過した時点で、ライフステージに応じたがん対策、社会経済的な問題等の新たな課題が明らかとなってきた。

平成27年6月、このような経緯を踏まえて、これまで取り組まれていない対策に焦点を当てて、今後のがん対策のあるべき方向性について、がん対策推進協議会の意見をとりまとめた。

## ○概要

「がん対策推進基本計画に明確な記載がなく、今後、推進が必要な事項」として、以下を挙げている。

**1. 将来にわたって持続可能ながん対策の実現**

- ・ 少子高齢化等の社会・経済の変化に対応する社会保障制度の改革  
地域医療介護総合確保推進法に基づく地域における効率的かつ効果的な医療提供体制の確保 等⇒がん患者を含めた国民全体が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる体制の整備
- ・ 各施策の「費用対効果」の検証
- ・ 発症リスクに応じた予防法や早期発見法を開発・確立することによる個人に適した先制医療の推進
- ・ がん医療の均てん化と集約化の適正なバランスに関する検討
- ・ がん登録情報を活用した大規模データベースの構築 等

**2. 全てのがん患者が尊厳をもった生き方を選択できる社会の構築**

- ・ がん患者が「自分らしさと尊厳」を持って、がんに向き合って生活していくためにはがんに関する正しい情報を獲得することが重要⇒「がん患者を含めた国民が、がんを知り、がんに向き合い、がんと共に生きることができる社会」の実現
- ・ 障害のある者に対する情報提供、意志決定支援、医療提供体制の整備
- ・ 難治性がんに対する有効で安全な新しい治療法の開発や効果の期待できる治療法を組み合わせた集学的治療の開発 等

**3. 小児期、AYA世代、壮年期、高齢期等のライフステージに応じたがん対策**

- ・ 総合的なAYA世代のがん対策のあり方に関する検討（緩和ケア、就労支援、相談支援、生殖機能温存等）
- ・ 遺伝性腫瘍に対する医療・支援のあり方に関する検討
- ・ 認知症対策と連動した高齢者のがん対策のあり方に関する検討 等